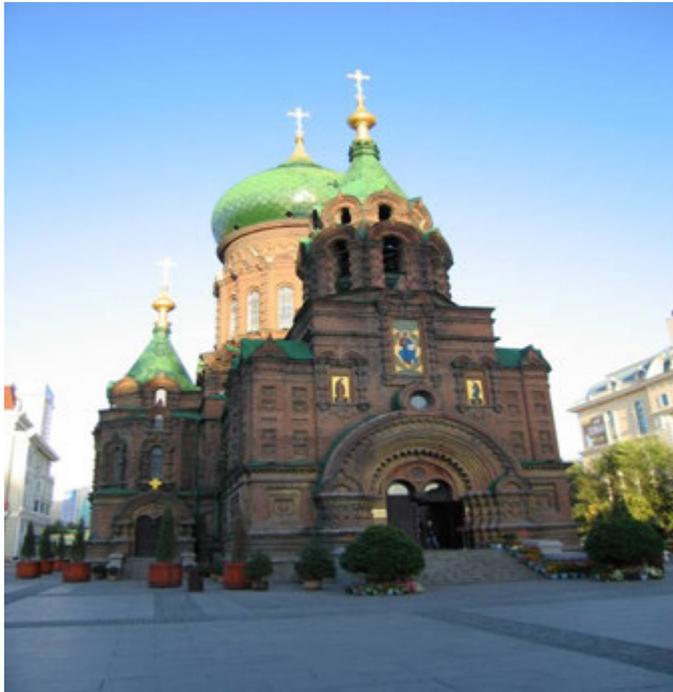
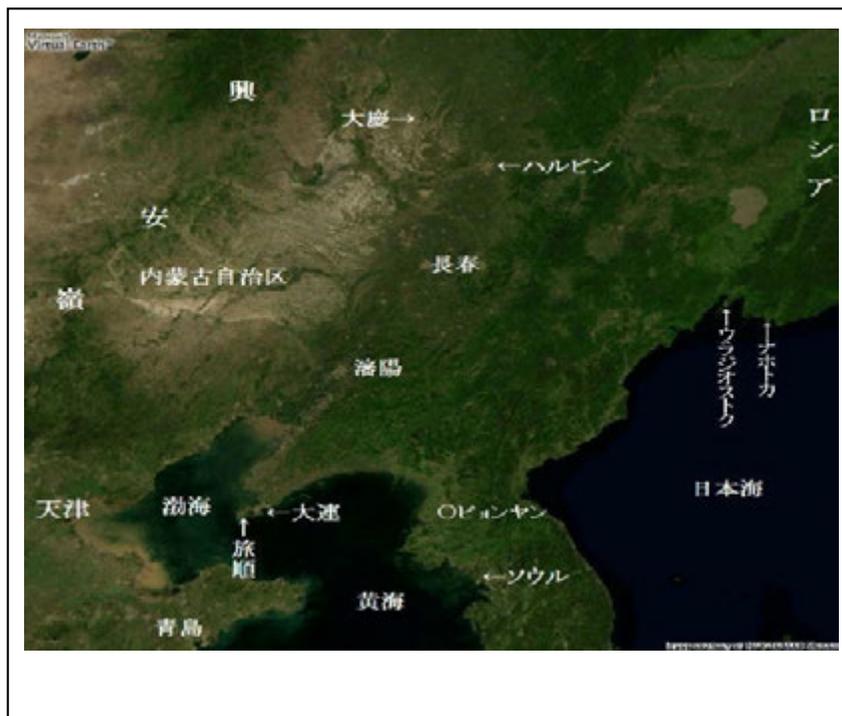


中国俳句の旅 = 満州編

平成20年9月20日から23日



- 1 旅順 水師営 東鶏冠山 203高地
- 2 大連 満鉄本社 大連港
- 3 大慶 大慶油田
- 4 ハルビン 松花江 キタイスカヤ通り
市街
- 5 俳句作品と参加者の感想
- 6 データ



平成二十年九月二十日〜二十三日

昨年に引き続き、旧満州を訪れた。今回はさらに足を北に伸ばして、哈尔滨（ハルビン）と大慶（だいきい）を訪れた。秋分の日を哈尔滨で迎えることになったが、「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り劇的な季節の変わり目に遭遇した。

二〇〇八年九月二十日（土）私たちは三菱商事鉄鋼部門のスペシャリスト武田禅次氏をリーダーとして野分の風の強

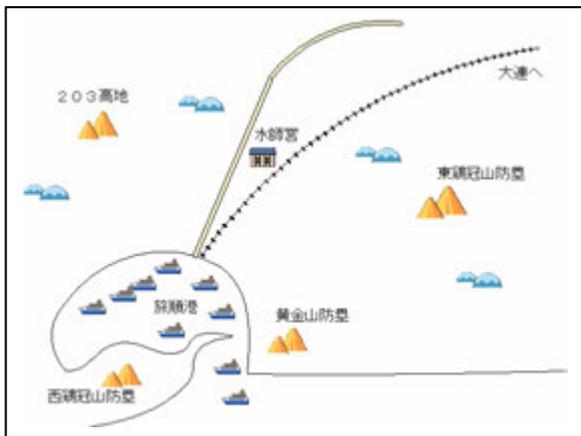


大連周水子国際空港。空軍と同居。帰路は北朝鮮がミサイルを撃ったとかでスクランブルのために遅れる。



大連から旅順に行く途中。四車線の道が踏み切りで一車線になってしまふ。

い中、成田空港を発ち大連周水子空港に降り立った。二時間半の飛行時間であった。現地は小雨 気温二十三℃。空港から旅順へ貸切りバスで直行した。



旅順

旅順の名は清朝末にここに海軍基地が建設されるにあたり、時の直隸総督兼北洋大臣李鴻章が北京からの旅路を折

念して「旅途平安、順調到達」と唱えられたことから名付けられた。旅順の軍事的な価値は「旅順は北洋の要塞に位置し、京畿の門戸なり」とされそれは清朝、ロシア、日本帝国、そして解放後の中国が今も大切にしている軍港である。一八八一年のことである。

空港から旅順へは二つの道が付いているが、往きは中路を帰りは海岸沿いを通ることになった。

旅順口は大連の西方四十六km、バスで一時間の距離にある。路面電車二〇二が走る道に沿って西に向かう。

旅順港は天然の要害に囲まれた軍港都市である。日清戦争の時代から、重要な軍港で清朝もこれを重要視していた。旅順港は入り口で砂嘴のようなもので一部を除き塞がれているために内と外を遮断できる良港である。湾を見下ろす三箇所の高地に砲台が築かれていて港を外敵の侵入から守っている。外海と湾内を見下ろすところが西鶏冠山砲台。陸地側の高台は東鶏冠山、それに二〇三高地である。其のほかにもいろいろな砲台があった。

さて時代が遡って日露が戦ったとき、ここ旅順にはロシアの北方艦隊が集結していた。これを動けぬようにして、北から南下してくるバルチック艦隊の援軍としての攻撃力を低めようというのが日本軍の始めからの考えであった。東郷平八郎の率いる日本海軍はこの計画に従い旅順港口に船を沈め内部の軍艦を外洋に出さないようにする努力を重ねたのであるが旅順の防衛の要である二〇三高地や

東鶏冠山の要塞は落せずにしたために旅順の支配権を奪えないでいた。乃木大将の率いる日本陸軍の愚かとも後世に言われた二〇三高地の攻撃ぶりは語り草になったが、甚大な損害を受けながらも、先ず東鶏冠山を落とし、次いで二〇三高地を落し二〇三高地の背後から日本から運び込んだ海軍の二十八センチ榴弾砲を旅順港のロシア艦隊に対して打ち込み、遂にロシアの太平洋艦隊の主力を撃滅したことは日露戦争の一大エポックとして未永く語られている。

バルチック艦隊が一見悠々と、実は四苦八苦して近づいて来る間にようやく間に合うように旅順港内のロシア艦隊に大きな打撃を与えることが出来たのであった。

二〇三高地から旅順港を見下ろすと左手に黄金山。さらに左に激戦地の東鶏冠山の陣地があった。湾の右側から海面の中に延びているのが砂州であり。砂洲の外側の湾口の狭くなったところに白瀬中佐などが船を沈めようとした。この封鎖作戦はロシア側の猛攻撃により失敗に近かったが軍神白瀬中佐の話が出来上がった。二〇三高地の後る側には渤海がある。黄海と渤海の境目をなしているのが旅順の半島である。渤海は天津に面し北京への玄関口でもある。

道にはトラクに混じって荷車を引くラバが見える。夏の果物である西瓜などを載せた荷車である。

馬でもなく驢馬でもないラバは掛け合わせであるが力づよさと従順さで扱いやすい動物物だそうだがラバ同士では子

供が出来ないところが哀れである。

踊ること驟馬が荷を曳く道の秋 良雨

日露戦争の序盤であるが旅順での戦いに勝った乃木大将がロシアのステッセル將軍と会見を行った場所が水師営。水師とは船乗りで水夫(かこなど)というのに近い呼び名。その水夫たちの町のことである。砲撃戦であらかたの建物は壊れてしまったために残されたあばら家が会見所には選ばれたわけだ。

水師営会見所跡

一(いち) 列談判破裂して、
日(にち) 露の戦争始まった、
さつさと逃げるはロシアの兵、
死んでも尽くすは日本の兵、
五万の兵を引き連れて、
六人残して皆殺し、
七月八日の戦いに、
ハルピンまでも攻め入って、
クロポトキンの首を取り、
東郷元帥万々歳



水師営の3代目の棗の木。

の数え歌に乗せて歌われてきた日露戦争の始めの節は先ずここ水師営会見所で始まる。この場面はさらに歌によって語り継がれている。

旅順開城約成りて
敵の將軍ステッセル
乃木大将と会見の
所は何処水師営
庭に一本棗の木
弾丸あともいちじるく
くづれ残れる民屋に
今ぞ相見る二將軍

に歌われた通り貧しい百姓屋の中であつた。棗の木は三代目であるそうだ。



水師営の草屋根の家。



水師営の内部。土間と荒壁。



(乃木とステッセル会見卓。実は簡易手術台)

東鷄冠山防塁跡

東鷄冠山は大連方面から陸地伝いに攻めてくる敵にも旅順の港の防衛にも備えて作られた陣地。日本軍は二〇三高地の背後から長射程の海軍二十八センチ榴弾砲を旅順港のロシア艦隊に撃ちこみたいのであるが、そのためには二〇三高地に着弾の監視を行う兵を配置しなければならぬ。ロシアはそれをさせじと東鷄冠山の陣地から二〇三高地を狙って撃つ。そのためにこの東鷄冠山の攻防はすさまじいものであった。塹壕はコンクリートの厚い防壁になっていたが、それまでの十五センチ砲弾では破壊できず、破壊するには二十八センチ砲弾を撃ち込まなければならなかった。日本軍がその必然性に気づきわざわざ日本から28センチ砲を運び込んだのは東鷄冠山の陣地を破壊しなければ前進できないことが判つたからである。

銃眼の向合ふ壕や虫時雨 良雨



東鷄冠山の塹壕

二〇三高地

余りにも有名な戦場。二〇三は単なる通し番号による陣地の名称であったが、戦前の高さ二〇六メートルが激戦により三メートル吹っ飛び二〇三メートルの高さになり、名前の通り陣地名称になったと言われている。この戦いのすさまじさは『坂の上の雲』に詳しいのでここでは触れない。ここに立つと旅順港が正に一望できる。二〇三高地を占領した日本軍は、後方から二十八センチ砲を旅順港内のロシア艦隊に打ち込み、弾道修正をこの高地に立ち正確に行つたために港内のロシア軍艦は完璧に破壊されてしまつた。まさにバルティック艦隊が近づきつつあつた頃である。

ここに上るのに去年は、駕籠かきを利用したが、今年は駕籠かきはいなかった。その代わりバイクの後部座席に客を乗せる方法に代つていた。北京オリンピックによる規制などがあつたものだろうか。歩くと結構きつい。頂上には爾霊塔がそびえ歴史を語る。日本軍使用の二十八センチ榴弾砲は無かつたがロシア軍の十五センチカノン砲が一基置かれていた。

二〇三高地十方秋の声 良雨

鵲や渤海見える風の丘 同

龍淵に潜む蒼さに旅順口 同



203高地から望む旅順港

来てみて初めて解ることがある。その一つに大連が坂の多い街であることだ。港から後背地へ少しづつ坂がかりになって行く。

大連の町はもともとロシアが当時最新のヨーロッパの町をイメージして作った。各所にロータリーがあり、道は広々しており、建物も瀟洒である。

住宅街も同様で、ロシアが日露戦争で負けて撤退したあとは日本人の手によりヨーロッパの雰囲気を残しながら改良が加えられた。「七七路」あたりにある旧日本人居留街は戦前の面影を残しているといわれるが、これはロシアの広々とした街づくりの上にある日本の家屋ということを決して日本の温かさを感じさせる街並みではなく、硬質な感じの漂う町である。

フラマホテル大連（大連富麗華大酒店）



203高地の露式15センチ
カノン砲



203高地。爾靈塔

山の等高線に沿い、街（JIE）呼ばれる小道がありここに家が並んでいる。聞くところによると大連は中国東北地方の玄関口にあたり冬の寒さはなかなかのものらしい。また、大陸特有の強風が吹き、冬は耐えるという一語の毎日だそうである。

私たちは「ハルピン街」の静かな路地を歩いてみた。煙突を備えた石造りの家には鶯が絡まり、鉄柵を廻らせた庭にさまざまな草花を咲かせている。柵は薔薇を絡ませ、糸瓜の実がだらりと下がっている。朝顔はどれも小ぶりである。サルビアの紅色が眩しい。

柿の実が実る家もある。子供をあやす老女が数組路地に屯している。母親は働きに出ているのであろう。

路（LU）と呼ばれる大通りの街路樹はアカシヤや鈴懸けである。見たところ鈴懸けが多い。アカシヤの大連というイメージより鈴懸け（マロニエ）の大連と言った方がふさわしい。マロニエの落葉が風に乗り坂を音を立てて滑り落ちてゆく。中国の大都会でこうした自然の音を聴く機会は少ない。日本人がかつて多くここに住んでいたという吹き声とも聞こえた。

また、この街の特徴は坂の町であることにもよるが自転車が非常に少ない。危険防止のために制限されているようである。またバイクもまた少ない。そのせいか街が整然として見える



大連市内見物

老虎灘

労働公園展望台

老虎灘の

バスに乗り市内をざっと一巡することになった。まず訪れたのは満鉄本社跡。現代の中国の建物と比較するとさほど大きく感じさせない建物であるが、満州の経済はこの満鉄が握っていたのだ。



旧満鉄本社前で。



大連は路面電車の似合う町。



大連・老虎灘の海水は綺麗。

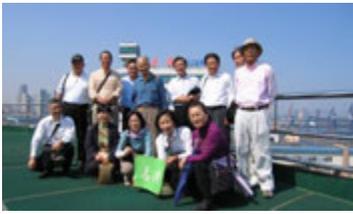
さらに大連市の南東にある岬をぐるりと回り高級リゾート地の「老虎灘」を過ぎる。今高層マンションの建設ラッシュ中である。日本より高い値段がついているという。高いものは販売価格で一平米当り一万元を越すものがざらであると話していた。

日本円では坪あたり五十万円であるから五十坪のマンションで二五〇〇万円になる。物価の差を考えるとどんな人が買うのかよく分からない。北京オリンピック以後の中国バブルの崩壊はどうか、この文章を書いている十一月の末のアメリカの金融危機に始まる世界恐慌の恐れ時代に持ちこたえることが出来るのか、心配である。

大連港

宿泊のフラマホテル（富麗華大酒店）は人民路の港寄りにあるのでホテルから歩いて也十分もかからずに大連港に着く。大棧橋が長々と続き乗船の客がどんどん吸い込まれている。皆川盤水師が若かりし頃ここで大連汽船の社員として青春時代を送った土地であるのでなおさら親愛感情が増しているようだ。

埠頭の前の八階建て位の大連港管理事務所の屋上に上る。ここから港が一望できる。無料であるがみやげ物店が併設されているので帰りには何がしかのものを買わざるを得ないであろう。友人は七万円ほどの真珠の飾り物を買っていた。



大連港管理事務所屋上から大連港のクレーンを見る。

ハルビン（哈尔滨）空港から大慶へ

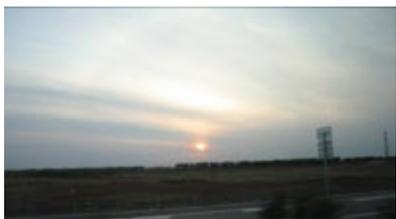
大慶

大慶といっても日本人にはなじみの無い都市かもしれない。ここは戦前からも石油が産出しかつては日本軍もこの石油に頼っていたこともある。毛沢東が中国を解放してからこの石油の重要性は一段と高まり、石油増産に命をかけた男が王鉄人であり、王鉄人の名前とともに大慶は中共では大変有名な場所になった。

わたしたちは哈尔滨空港からバスで北西に三時間半走りこの町に着いた。今回のリーダーの武田禅次氏の仕事絡みで来たのである。とにかく行けども行けども満州の原野。道の両側は玉蜀黍の畑。ところどころに平原があり羊飼いが羊を追っているの見える。また、沼のようなどころが多く見られるので質問すると泡子（バオズ）と言い水溜りであると言う。さらに鶴の飛ぶ姿の像が街路の柱の上に飾られている。このあたりは鶴の生息地だぞうだ。

10

衛星写真で見るとこの泡子は確かにこの地域に多く見られる。満州平野の鳥たちのオアシスになっているのだろう。私たちはバスのなかから満州平原に落ちてゆく夕日を見ながら大慶に着いたのであった。



満州の地平線に夕日が沈む頃（ハルビンから大慶に向かって100キロくらい）



大慶の近辺の泡子（バオズ）溜池（衛星写真から）



油田に働く井戸。7万本ある）



東北地方の石油開拓者。王鉄人。

大慶石油賓館



ソフィスカヤ寺院の内部。今は観光施設になっている。



大慶で足裏マッサージのサービスを受ける。
全員20歳くらい。よく笑う乙女たち。



2, 007年 アクセス、航空スケジュール、コストのデー
タ

珍しかったのは海參撈飯（ハイセンラオファン）。海鼠の一匹丸ごと煮たスープとチャーハンが出てきて、海鼠を細かく切りわけたそのスープの中にチャーハンを入れて食べるという豪快な料理。この海鼠は干し海鼠を戻して使ったもので腰がある食感を楽しめる。

路上の床屋落葉もろとも髪を掃く

秋の夜や蛇口の水は飲めません

いつになったら飲めるか

沢庵ばりと噛んで異国に秋逝かす

海鼠喰ふ脛長族の裔娘大連の人は背が高い

高度八千新米の機内食

鯛雲上から見ても鯛雲



ハルビン空港外観



東方餃子王 1皿 80円から



竜華漁村 (川魚料理中心のハルビン料理屋。
チョウザメ、草魚、鯉などある)



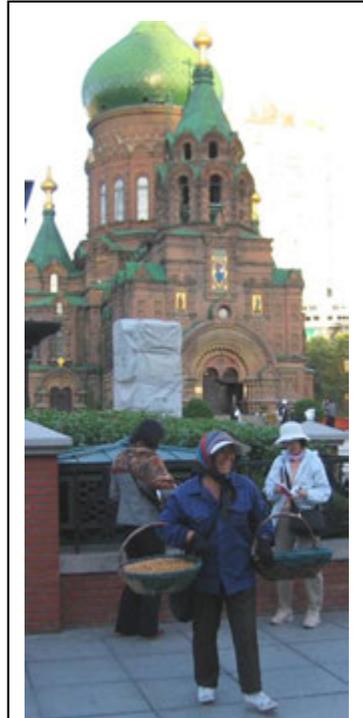
松花江のほとり (川は何本にも分かれて流れている)



団扇とボールを使った健康体操 松花江ほとり



ハルビン空港（地方便はタラップ利用らしい）



山楂子売り（この地区での物売りは禁止されているが憎めない人たち）

感想

6 データ

スカイライナー 京成—成田空港 60分 2920円
 全日空 ANA903 成田—大連周2時間 45分
 11:00 発水子空港
 全日空 ANA904 大連—成田2時間 10分往復
 13:15発 75,360円

1元≒17円 大連タクシー初乗り10元、
 枕銭（10〜20元）市民平均月収2000元

成田―大連 (JAL797) (JAL798)

フライト所要時間 2時間40分

機内昼食飲み物付き往復 7300円燃料サーチャージ

+保険料13600円 成田空港施設使用料1040円中国出

入国税1350円

大連―ハルビン中国南方航空(CZ3603) (CZ6261)

フライト所要時間 1時間25分

機内ドリンクスナック菓子付き往復 29000円サーチ

ヤージ 3000円中国国内線税1500円

小計123490円 (団体扱)

ハルビン―大慶 バス 3時間30分

大連富麗華大酒店 西館 11,200円

大慶油田賓館 9,680円

哈尔滨香格里拉大飯店 11,200円

東方餃子王 夕食 600円

など179,800円でした。

平成二十年十月

作成・編集 暮目良雨
青蛙堂協力

